

巻 頭 言

## 専門日本語教育研究の一方向

専門日本語教育研究会会長

大坪 一夫

(麗澤大学外国語学部)

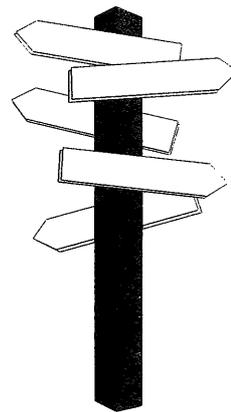
「専門日本語教育」研究の目的は、「現実の社会の中で日本語を使ってある目的を達成しようとしている人々を支援する効果的な方法の開発」である。初・中等教育での教科の学習にはげむ児童、営業成績を上げようと頑張っている会社員、良い論文を書こうと懸命に努力する学生を日本語の面から支えるのがわれわれの目的である。この点については、会員の大部分に異論はないと思う。

しかし、それでは何から始めようかということになると人によってさまざまであろうし、それは、それで意味がある。ただし、研究の方向づけに狂いがあれば、努力対効果が小さくなる恐れがある。ここでは、日本語の教師がともすれば忘れてしまいがちな点について述べておくことにする。

日本語の教師は、長い間日本語という言語の教師でありつづけたし、これからもそれに関して急激な変化は起きないだろう。しかし、その結果、学習者の言語使用能力の低さの原因を過度に言語知識の低さに求める習性を身につけてしまった感がある。その意味で、言語知識と使用について考え直してみることに意味がありそうだ。

「言語能力」は、ある期間一定であると考えていいようである。もちろん、アルコールや脳の外傷、年齢等の影響によって、言語能力が低下する事実を否定するものではない。しかし、そのような特殊事情がない限り、実用上、伝達に支障がないという意味で、言語能力はある期間一定であると考えて差し支えないように思う。しかし、「言語能力が一定であること」は、「言語を使用してなんらかの目的を達成する能力」（ここではこれを「言語運用能力」ということにする）も一定である」ことを含意しない。言語運用能力は、時々刻々変化していると考えた方が常識的な観察にあう。発表能力については、多くの人が「言いたいこと、書きたいことがなければ、言ったり、書いたりすることはできない」事実を認めている。しかし、それと平行な関係にある「聞きたいこと、読みたいことがなければ、聞いたり、読んだりすることはできない」という認識は我々には馴染みが薄い。

しかし、我々は、そのことを直感的に知っているらしい。駅前には、たくさんのタクシーが客待ちをしている。駅前には、その町のことをよく知らない旅行者が多く、そのために、旅行者は、その町の住民よりも頻繁にタクシーを利用する。そのことをタクシーの運転手は知っている。旅行者は、自分が聞きたいことが何か知っていてさえ、知らない町で



のバスや電車の車内アナウンスに対する聴解力の低下を認め、自分の町でならバスや電車で済ます距離でも、タクシーを利用しがちになる。知らない町でバスを利用する旅行者は、自分の聴解力の低下を読解力で補おうと、バス停の標識に注意を向けたりもする。これは、その町の住人にはあまり見られない行動である。

上の旅行者は、決して自分の言語能力が低下したとは考えないだろう。新幹線の車内で読書に励む旅行者は少なくない。旅行に出るから自分の言語能力が低下し、その結果、読解力が低下するに違いないから、読書は諦めようとは、だれも考えない。しかし、その旅行者が自分の聴解力の低下を認めるのである。旅行者の聴解能力を低下させるのは言語能力に原因があるのではない。旅先の町についての知識不足が原因である。このビルが見えたから次のバス停で降りようとか、電車が始発駅を出てから10分しか経っていないから、もう少し新聞を読みつけようという判断ができないのである。

さて、結論に入ろう。われわれは、言語の理解にボトムアップ的やりかたとトップダウン的やり方を併用して円滑な理解を成り立たせていることを知っている。また、知識が十分なときはトップダウン的なやり方が、不十分なときにはボトムアップ的なやり方が採用されることも知っている。しかし、具体的にどんな人がどんな時にということはない。その結果、われわれは、援助しようとする相手にだれが何を伝えれば効果的かを判断する基準を持っていない。それが最大の問題なのだ。

科学技術日本語教育が日米間の大きな問題になっていたころの日本経済新聞に LSI を「集積回路」ということが日本語学習上の困難点の例として挙げられていたが、それは、大問題ではない。LSI について十分な知識を持つ学習者に、LSI は日本語では「集積回路」と書き、「しゅうせきかいろう」と読むのだと教えれば、それでもう十分である。しかし、LSI そのものを知らない学習者に、それに当たる日本語の単語を教えても、猫に小判にすぎないだろう。言語知識上の若干の変化が言語運用能力にはほとんど何の影響も与えないのだから。

筑波大学言語学研究所日本語学研究室編 筑波大学言語学研究所日本語学研究室編

筑波大学言語学研究所日本語学研究室編 筑波大学言語学研究所日本語学研究室編